

管内の観光客数6%増 2019年



古石

空知管内24市町の2019年度上期観光客数

順位	市町名	観光客数(人)	前年同期比(%)
1	砂川市	113万4400	▲8.6
2	三笠市	94万2500	1.0
3	岩見沢市	85万3200	11.1
4	長沼町	67万3000	51.3
5	深川市	61万7400	7.8
6	芦川市	58万5400	▲4.9
7	滝川市	52万7900	▲1.3
8	滝父町	47万4200	▲2.5
9	北条町	43万5400	▲4.2
10	栗山町	31万7800	▲9.3
11	美幌町	26万8400	54.2
12	夕張市	22万4700	▲14.8
13	由利町	21万6200	▲3.1
14	雨竜町	18万4800	3.8
15	南幌町	17万1100	7.5
16	赤平市	15万2900	0.2
17	浦臼町	14万9000	21.9
18	妹背牛町	12万9000	▲7.2
19	歌志内市	9万8100	▲42.4
20	沼田町	9万5600	▲1.5
21	新十津川町	9万2400	3.0
22	月形町	8万3900	10.8
23	上砂川町	5万4000	3.7
24	合計	862万9800	6.0

※▲はマイナス

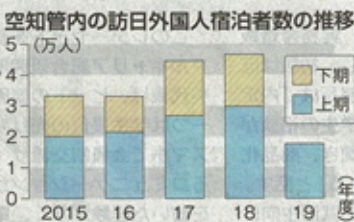
管内観光客数6%増

昨年4〜9月 外国人宿泊者数4割減

空知総合振興局がまとめた2019年度上期(4〜9月)の管内の観光客数(速報値)は、日帰り宿泊を合わせて862万9800人で、前年度同期比6.0%増だった。春の10連休が好天に恵まれ、胆振東部地震で前年度は中止されたイベントが開催されたことなどが要因。外国人宿泊者数は同40.7%減の1万7860人で、国別でトップの台湾人客が50%超減少したほか、日韓関係の悪化で韓国人客がほぼ半減したのが響いた。

台湾、韓国人客が大幅減

管内24市町のうち16市町は、胆振東部地震で前年度より、前年度を上回った。トップの砂川市は「北海道「餅祭り」の開催などにより、同11.1%増の85万3200人が訪れた。管内全体の道外客は同8.6%増の730万7300人、管内全体の道内客は同7.2%増の132万2500人だった。同振興局は「札幌と旭川から近く、日帰りの立ち寄り先としてくれる人が多い。今後も多くの人に来てくれるようにPRしたい」と(商工労働観光課)とする。



外国人宿泊者数は、統計を取り始めた09年度以来初めて減少。国別では台湾が70144人(39.7%)とトップだったが、前年度に比べ55.0%減。3位の韓国も2788人(15.8%)で前年度より48.4%減少した。外国人宿泊者全体の72.0%となる1万2737人が訪れた夕張市が、前年度に比べ47.5%減と大きく落ち込んだのが響いた。同市内にある大手ホテルの台湾や韓国など海外向けの営業が振るわなかったためとみられる。

医療、農業でICT活用

岩見沢市が新総合戦略素案

【岩見沢】市は2020年度にスタートする新たな総合戦略の素案をまとめた。市民生活や農業分野での情報通信技術(ICT)の活用や療養施設を使った拠点整備、起業支援などの事業を盛り込んだ。市の人口推計や目標を示す「人口ビジョン」も改訂。人口減少の進行に対応し、出生率の上昇や、市外への転出超過を半減するなど社会動態の目標達成時期をそれぞれ繰り下げた。(中沢弘一)

人口ビジョン 目標達成時期繰り下げ

新たな総合戦略の計画期間が24年度までの5カ年。人口減少に対応したまちづくりと地域経済の活性化を柱とし、その実現のため関連事業を含め計44事業を挙げ、なすを掲げる。スマート農業分野では、農業者の負担の軽減に向け、ロボットトラクターやドローンなどの機械を共同使用するシェアリングサービスの導入を目指す。昨年3月に閉校した市立美流渡小、中学校の校舎を活用した地域の拠点整備や、購入額に上乗せして市内業者による住宅の新築やリフォームに使える「プレミアム建設券」を継続させることも盛り込んだ。

人口ビジョンの改訂では、女性が生涯に産む子供の数を示す「合計特殊出生率」の目標達成時期を15.25年遅らせた。現行のビジョンでは、30年に1.80、40年に人口を維持できる水準とされる2.07の達成を目標としているが、市内の合計特殊出生率は14年以降、1.21〜1.27と横ばいで推移している。目標達成は難しいことから、30年の達成時期を45年に、40年を65年にそれぞれ変更した。転出と転入の差し引きの社会動態も、現行ビジョンでは14年に5万人を超過する目標だったが、超過に抑止めがことなかから、5年後に下げた。転出者と転入者の差も、5年遅らせた。

1月道内降雪最少

統計開始61年以降 平年比47%

札幌管区気象台は3日、道内の1月の天候をまとめ、北の寒気が南下が続き、大雪はなかったことに加え、日本海側を中心に記録的な少雪となった。主要な観測地点の降雪量はいずれも平年を下回り、各地の平年比を平均すると47%となり、1961年の統計開始以来、1月として最も少なかった。22地点のうち、降雪量が特に少なかったのは、樺山管内江差町が平年比2%の2センチ、日高管内浦幌町が同15%の7センチ、札幌市は同49%の85センチ、旭川市は同52%の90センチ、函館市は同19%の22センチ、稚内市は同29%で51センチだった。今冬は札幌管区気象台は3日、道内の気温が11日ごろから道内高温注意(札幌管区気象台は3日、道内の気温が11日ごろから道内高温注意)を発した。気象台によると道内は、10日ごろまで寒気の影響で平年より気温が低くなるが、その後西風が北に転じて寒気が入りこくなることから気温が急激に上がる見通し。11日ごろから各地で平均気温が平年比3度以上高くなる可能性がある。気象台は雪崩などへの注意を呼び掛けている。

お寺を住民活動に開放



4回目の「お寺ら終活カフェ」。左の奥が榎木孝子さん、その右隣りが内平澤さん。1月25日、札幌北区的賀王寺

若い世代の僧侶 熱心に 終活講座や子育て支援の場

札幌市北区的賀王寺の住持、榎木孝子(80)住持は、お寺を住民活動の場として開放している。お寺は、終活講座や子育て支援の場として開放している。お寺は、終活講座や子育て支援の場として開放している。

転出超過5568人に縮小

昨年の道内札幌集中続く

総務省は31日、住民基本台帳に基づく2019年の人口移動報告を発表した。北海道は、転出者が転入者を上回る「転出超過」が前年より646人少ない5568人となり、都道府県別で最も転出超過数が縮小した。市町村別では、札幌市以外では江別市1075人、恵庭市491人、石狩市354人など札幌圏への転入が目立った。一方、東京圏(東京、埼玉、千葉、神奈川)は転入超過が前年より8915人多い14万8783人。拡大は3年連続で、東京一極集中に歯止めがかかっている。他の三大都市圏では、名古屋圏(愛知、岐阜、三重)が1万5017人、大阪圏(大阪、京都、兵庫、奈良)が4097人の転出超過だった。北海道の転出超過は24年連続で、都道府県別では12番目に多かった。道外への転出は前年より729人多い5万8138人、道外からの転入は13万75人多い5万2570人だった。

道内179市町村のうち165市町村で転出超過となった。旭川市で1046人にとったほか、函館市923人、釧路市792人、小樽市760人だった。転入超過は14市町村で、札幌市以外では江別市1075人、恵庭市491人、石狩市354人など札幌圏への転入が目立った。



千葉 澄子さん(80) 一北広島市

人生80年目の「ミニ」提言のついでに「人とのつながり一番大事」



1600\*越え姉妹町の絆10年

熊本・多良木 南幌の冬楽し

多良木市と南幌町は、姉妹都市として10年を記念して、冬楽しを開催した。